

第12回仙台城跡保存活用計画等検討委員会

- I. 開催日時 令和2年8月6日(木) 18時00分～20時00分
- II. 開催場所 仙台市役所上杉分庁舎12階 教育局第1会議室
- III. 出席者 (委員) 北野 博司・菊池 慶子・稲葉 雅子・小齋 憲博・
今野 薫・庄司 弘美・馬場 たまき・藤澤 敦・
山田 淳
(宮城県) 関口重樹(教育庁文化財課 技術主幹)
(事務局) **【教育局】**
生涯学習部長 筒井 幸子
文化財課長 長島 栄一
仙台城史跡調査室長 鈴木 隆
主任 齋藤 俊義
主任 加藤 智仁
主事 須貝 慎吾
主事 佐藤 恒介
【文化観光局】
観光課賑わい創出係長 三浦 貴之
【建設局】
公園課公園整備担当課長 鈴木 江美子

(報道機関) (無し)
- IV. 傍聴人 0名

※会議録の署名について委員長は今野委員を指名

V. 概要及び議事内容等

1 開会

2 議事

1. 第 11 回委員会資料について

<第 11 回委員会資料 1、2、3 に基づき事務局より説明（第 12 回委員会資料 1 も補足として使用）。>

委員長： 第 11 回委員会資料については、書面審議の形では無かったため、実質的には今日初めて議論することになる。内容が非常に多岐に渡っているため、一旦第 10 回委員会の振り返りになる部分（第 3～6 章）までの質疑を行う。

4 章と 6 章は関連付けて、非常にわかりやすく整理されている。

P22 の 3 つに価値をわけたのは良いが、相互に重複があるので円をグラデーションにして重ねると良い。

馬場委員： P27 の基本理念については、現在策定が進んでいる仙台市の総合計画とのリンク・互換性はあるか。

事務局： 総合計画との整合も気にしているが、あくまで史跡整備の基本理念として設定している。総合計画には歴史の観点も入っており、当然関わりがでてくる。

馬場委員： 総合計画の方では緑の環境を強く言っているが、その観点は基本理念に入れなくてよいか。

事務局： 本計画が先に進み総合計画の方が後追いの状態となっているためタイムラグがあり、統一することは現在難しい。最終的には調整していきたい。

稲葉委員： P22 「政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物」、P27 「仙台らしい街づくりと地域の活性化へつなぐ観光資源」などの「～らしい」という表現に疑問がある。P28 には、「（2）城郭らしい景観の顕在化および眺望の確保」とあり、ここでは城郭らしい景観の説明が先に書いてあるが「政宗らしい」や「仙台らしい」についての説明書きはあるか。

事務局： 特に直接的な記載はしていないため検討する。

委員長： 後半の個別の計画に対し色々と意見があると思われるので、先に後半の計画の具体的な中身について、皆さんから積極的なご意見を聞き、最後に前半の部分に戻ってくることにする。順不同で第 7 章についてご意見をどうぞ。

稲葉委員： P52～54 は動線計画というより、現状の仙台城跡へのアクセスが記載されている。P56 からは回遊モデルコースを記載しているが、仙台城跡に至るまで現状のアクセスルートをもとに動線として検討したいという考えか。

事務局： 他部局との調整等にも関わるが、中心部から西公園などへの人の動き・交通体系については別の部局が検討を進めているため、本計画に取り入れられる状況になれば取り入れたい。現状では、議論が詰まっていないため、我々が先んじることは難しい状況である。

委員長： 記載内容が現状であることは理解したが、もし課題などがあればそれを解決するような整備案を作る必要がある。

今野委員： 動線計画について車いす利用の場合のコースや所要時間等の設定の視点もあった方が良い。また、避難ルート・避難場所の設定が必要ではないか。

事務局： コースの所要時間については、バリアフリーの観点からの記載を検討したい。避難ルートあるいは避難場所のご意見を踏まえ検討する。

菊池委員： 稲葉委員の意見と同じく、仙台城跡の整備基本計画を作るうえで動線計画に観光モデル的な内容でアクセスが入っているのは違和感がある。あくまで城跡の保存や活用の問題であるため、アクセスは不要なのではないか。アクセスについて変更するのであれば、大きな変更なので動線計画ではなく計画冒頭に記載すべきである。

回遊モデルコースの記載は、これまでの委員会での検討を踏まえわかりやすくコンパクトにまとまっていて良い。観光関係の方が参考にできる視点も含まれておりこれは本計画に入っているのではないかと。

また、本計画には回遊コースができた際に必要となる整備計画が記載されている方が良い。

事務局： アクセスについては、整備基本計画は必ずしも地元の方のみが使うものではないため、国の史跡として国内での位置やアクセスについて記載している。

コース設定による整備のあり方というのは、確かに説得力のある計画を作成するために必要な内容であるため説明板の設置や動線の整備等は十分検討したい。

委員長： コース設定するだけでは決して活用は進まないため、それを具体的にどのように実現させるか、整備の具体案を示す必要がある。

山田委員： 活用の内容をもう少し具体的・積極的にしてほしい。今後、ガイドの方々も本計画に基づいて十分に利活用できるような中身にしていくことが、最終的な保存と活用のバランスであることを意識してほしい。

委員長： サインやガイダンスについても現状が記載されているため、課題を具体的にどのように整備で解決するか、庁内調整や記載内容の工夫が必要になる。課題の解決方法はパース図や具体的な概略設計で示すことになるだろう。

藤澤委員： 本丸に車で来て、本丸だけで見学が終わってしまうというのが現状であり、他にも魅力がある箇所までできるだけ回遊してほしい、と最初に記載されている。現状を踏まえて回遊モデルコースが設定されているが、ガイダンス施設的な位置付けにある博物館や(仮称)公園センターがコースの中の拠点としてどのような機能・役割を持つのか記載が必要である。城のことを勉強したい方はガイダンス施設等を見学してから現地を歩く、というようなことも当然あるだろう。特に、これから建設される(仮称)公園センターが一つのゲートウェイという位置付けになることを加味して示せないか。ガイダンス施設もコースの中に入れてほしい。

委員長： 7-5 動線計画と7-6 案内・解説施設に関する計画をもっと関連付けて、わかりやすい模式図にする等が良い。

菊池委員： 史跡へのアクセスについては整備基本計画(7章)に記述すると、それも整備の対象とするような印象になるため、本計画の冒頭に記載するのはどうか。

委員長： P41の景観に関する計画について、今回、植生の管理方針が4つ示されているが、内容は支障木伐採の要素が非常に強い印象である。

植生管理には、土の流出防止など遺構保全の側面もある。これらの側面も加味した内容にしてほしい。

また、森を持つ仙台城では、自然保護という側面も植生管理に含まれるため、植生を管理しつつ生態系そのものを保全していく視点が必要である。エリアによって生態系の保全・環境保全の側面が強くなるということもある。

「①植生調査」を確実に行ったうえで、仙台城全体の植生環境の守り方やあるべき姿を設定し、そこに向けて「②植生管理」を実施していくことが筋である。ただし、順にやっていると非常に時間がかかるため同時並行にならざるを得ないと思う。「①植生調査」も単に草木の種類だけでなく、理想的な仙台城の森をどのように作っていくか、という内容をまとめた上で「②植生管理」を行う、という流れになると良い。

事務局： 天然記念物については強く意識しているが、例えば本丸の平場・東側の崖面は個性が違うためそれぞれの個性に合った形での記載の仕方が必要となる。

稲葉委員： P30の基本方針で「(4)来訪者の回遊性向上」の最後に「ガイド活

動」という項目があり、これはP64の「(4)関係団体施設整備」と対応している内容と思う。ガイドボランティアは、現在の仙台城見聞館のほかには建設される(仮称)公園センターもガイドの拠点にできるようにするとの記載がある。ガイド拠点の増加が来訪者の回遊性の向上とどのような関連があるか、わかりやすく記載すると良いのではないか。小齋委員からも意見があるのではないだろうか。

小齋委員： 仙台城をガイドしているとき、数十年ぶりに再訪したという方から「仙台城跡は最近変わった」という話をよく聞く。例えば、大手門では絵や説明が掲載されている等、サインがとても増えてきていると言われる。これまでは騎馬像前で写真を撮るのみという観光で、所要時間は10～20分であったものが、最近は見学の所要時間が長くなっている。大広間の遺構表示を行った時に、前回からの変化に期待を持ってもらえるよう次々と整備を進めていく方が良い。

「仙台城はシンボル・象徴」という表現があるが、ガイドボランティアとしては、仙台市を来訪する方に誇りをもって仙台城跡を案内するという意識で、仙台城をナンバーワンにしたいという思いが強い。そのためには、子供たちも含め全ての人々が来訪しやすいようなものを積極的にアピールしていく必要がある。現在、活動の拠点とするものが無く手弁当で活動している状況であるため、拠点を設けられることによって色々な団体が集まり、強力になっていくというのは確かだろう。

保存だけではなく、いかに活用をしていくかを中心に考えてほしい。

事務局： (仮称)公園センターについてはボランティア活動ができるような場であってほしい、ということを経前から要望している。公園課の担当課長からご説明をお願いします。

建設局公園課： 公園センターをガイドの拠点とするという件は、動線にガイダンス施設の関連性を盛り込むことも関係する。(仮称)公園センターは、まずは青葉山エリアのエントランス・ガイド機能を持たせることを考えている。整備基本計画では回遊モデルコースを示しているが、関連する内容として公園センターの展示には(仮称)「魅力コレクション」とし、周辺エリアを楽しめる周遊に関するデータ・記録をアーカイブするシステムを考えている。そこで来訪者の希望コースについて学習したうえで、ガイドボランティアの方と一緒にコースを歩いて現地や仙台城の遺構を実感していくことができるよう計画している。(仮称)公園センターは、色々な民間活動団体の活動拠点になることで史跡仙台城跡の魅力アップにつながると考えている。

委員長： これまで、各施設はそれぞれ個別に運営等されてきたためガイダンス

施設の機能分担・役割分担を考えていかなければならない。また各施設を動線計画に組んだうえでの機能設定にも課題がある。ぜひ、本計画に盛り込んでほしい。

山田委員： (仮称)公園センターが建設されることで、仙台城見聞館と合わせてガイドボランティアの拠点が2箇所になる。建設される前にガイドボランティアや管理団体とコミュニケーションを取り、各施設の機能を活かして有効活用できると良い。

小齋委員： (仮称)公園センター建設案の最初期に「ガイドボランティアが利用するためにあると良いもの」についてお答えしたことがある。

山田委員： 元々あった要望が反映されれば非常に良い。

建設局公園課： 現在、(仮称)公園センターの建築工事が始まるところであり、運営方法についても、並行して事業者ヒアリングを行っている。やはりハード面の運営・管理だけでは、この施設は成り立たないため、協力してもらええるガイドボランティア団体や民間活動団体にも、運営協議会のような場で意見を募り、皆で協力し公園センターの運営を盛り上げようという考えとなっている。

委員長： 第12回委員会資料7-12に、公園課より話があった協議会のようなものを作り運営していくという具体的なことを記載してほしい。

藤澤委員： 7-6案内解説施設に関する計画に、デジタル技術を利用するという内容が記載されていない。スマホを利用した3Dの城下の様子なども既に設置されており、今後も色々な形で発展することも予想される。(仮称)公園センター等の拠点ごとにフリーWi-Fiを整備することも検討してほしい。現在、解説サインに多言語対応等のQRコードは掲載されているため、もっと強化していくという考え方となる。

事務局： 計画に記載することを検討する。現状、仙台市として始めているところがあるため観光課から補足をお願いする。

観光課： 委員のご指摘のとおり、現状はる一ふる仙台のバス停等に整備しており、本丸ではfree Wi-Fiを観光課で整備しているところもある。先ほど公園課から説明したように(仮称)公園センター等でも整備の検討が進んでいる。

建設局公園課： 公園センターにはfree Wi-Fiを付けることにしている。ただし、接続できる範囲は敷地が広いため建物周辺のみとなる。

観光課： free Wi-Fiの接続範囲等についてはこちらでも検討させてほしい。

2. 整備基本計画の検討(第12回委員会資料について)

<第12回委員会資料2に基づき事務局より説明。>

委員長： 7-12の図を参考に社会教育・生涯教育という観点では、どのようにするとより良く活用されるかということを考えていた。学校教育はこの図にはないが、学校教育との連携の観点でご意見をお願いします。

庄司委員： 7-11について“登録することで情報を気軽に受け取れる”ような、今の時代に合う（紙媒体以外の）ものがあると良い。仙台城への来訪者が使える時間は様々だと思うが、子供のみでなく、大人も対象として遊び心を取り入れ、再訪したくなる場所になってほしい。

これまでも色々実施しているとは思いますが、情報が色々な人に届いてほしいという思いがある。

委員長： 現状は今のようなご意見を受け入れていく仕組みがないため、意見集約に関する整備が必要である。先ほどガイドとの連携の議論があったが、(仮称)公園センターとのつながりのみではなく、史跡を管理している部門との連携方法・内容にも課題がある。全体の大きな協議をする枠組みを作っていく必要がある。

稲葉委員： P64(4)は施設整備だけのイメージだが施設整備だけでは足りず、ガイド団体への支援方法・連携方法の仕組み作りが必要ではないか。(仮称)公園センターは仙台城のボランティアだけでなく、西公園のボランティアや活動団体とも連絡をとっているが、この委員会ではどうしても仙台城のガイドボランティアのみの議論になってしまう。より広い意味でガイド団体の支援をしていくということを記載した方が良い。

山田委員： 7-12における管理運営の枠組みについては、情報発信力という意味でプロモーションの部分が足りないのではないか。仙台市で外に対する情報発信力のゲートウェイとなっている仙台城のガイドボランティア会や観光協会と連携した情報発信が必要である。戦略的なプロモーションを構築・検討するような部署も必要だろう。仙台観光協会にはコンベンション協会があり、このような団体との連携は非常に重要であり有意義だと思う。

馬場委員： 積極的に教育利用をするという活用面での記載がないため、盛り込んでいただきたい。

仙台市は市内の小中学生全員にタブレットを配布すると決めている。家庭学習とも連動させ、電子情報やWi-Fiの整備が整うと大人向けの紙媒体のみではなく、ウェブサイトでの小中学生用の解説等、情報周知のラインナップが豊富になる。小中学生は科学館には行くが博物館や美術館等、仙台城周辺を歩く等は学校教育で行うことが殆どない。動画やWi-Fi環境が整うとリアルタイムで教室と発掘調査現場をつなぐという新しい学習スタイルも生まれる。コロナ禍でもリアルタイムで行える授業

もあると、仙台市の取り組みとして全国の中でもさきがけになる。ぜひ
次回の委員会では、このような内容を充実させてほしい。

委員長： 活用は学校教育・社会教育・観光・地域づくりというような4～5つ
柱があったはずだが、記載されていないのはおかしい。

事務局： P73の図に関しては、学校教育あるいは生涯学習という要素が抜けて
いるため取り入れる。情報発信の方法についても検討する。

今野委員： 現在は就職の採用もウェブ上で行われており、学生の情報収集もウェブ
で行われる。外国人旅行者の情報収集も同様であるため、いわゆるDX（デジタルトランスフォーメーション）と言われる考え方を取り入れる
必要があるのだろう。

事務局： 既に市内でデジタル技術を活かした観光に関係する取り組みがあるため、
連携して取組んでいきたい。

菊池委員： P28（2）の「城郭らしい」という表現が気になっている。基本方針
として城郭らしい景観を顕在化させ、眺望を確保するということだが、
何故重要であるか説明する必要がある。仙台城が城郭としてどのような
個性があり、それをどのように活かした整備をしていくかということ
を記載した方が良い。

仙台城は、まさに東地における関ヶ原の戦いの中でできた城であるため山城
となっている。江戸時代の基本的な城は、平城であるがその中で
仙台城は何故山城として作られたかということが大事である。国分氏の
居城をリサイクルして突貫的に作った城（山城）で、やがて平山城として
二の丸を造っていくという説明が先に無ければ、「城郭らしい」という
一般的な表現ではかえって個性がわかりにくい。仙台城の個性をどう
整備で活かすかという視点が重要である。

また、「杜の都仙台の象徴」という本質的価値は、仙台市の動きやビジョンと
重なり悪くないと思う。ただ、「杜の都」には二つ意味がある。1つ目の
「杜の都」という言葉の発祥は、眺望の場所となった仙台城から眺めて
見る杜の都というところにある。明治末から大正、昭和にかけて、
「杜の都」を眺めるために観光客が来る場所になったことをもう少し
記載した方が良い。ただし、木を伐採して見晴らしが良くなれば良い
のかということではない。2つ目は眺望の場所としてできあがった仙台
城の眼下に見える人家がそれぞれに木を植えているというところにある。

この街が戦争で焼かれた後に、もう一度青葉通りのけやきから出発し、
街路樹を大きくして、人家に代わる緑が旧城下町全体に広がって近代都

市の仙台ができあがってきた。そして仙台が100万都市になり、海岸林まで含めた杜の都全体の緑の額縁がつくられ、奥羽山脈を越えると山形市に接する大きな範囲の中で、もう一度自然と人工の緑を作り、新しい都市として考えていこうとしたときに、最初の拠点を作った場所が仙台城である、という全体のストーリーになる。これを踏まえて仙台城を整備し多くの人に見てもらい、戦乱の時代から平和な江戸時代にかけての時代の流れの中で、仙台の伊達は城を作り領土を納めてきた、というストーリーを発信することになる。これを整備基本計画における共有の思いとしてどのように整備していくか、という作り方を希望する。

委員長： 副委員長の今のストーリーはコンセプトにも関わる。事務局ではこの話を踏まえて文章を考えてほしい。また、他ご意見は書面で提出いただくようお願いしたい。

3. その他

<事務局より次回委員会の予告と、今後のスケジュール案内。>

宮城県： 皆さんからご意見をお聞きしながら保存活用計画をもとに整備基本計画を作ってきているが、保存活用計画と整備基本計画の位置付けをもう一度整理しながら最終的な整備基本計画を作っていければと思う。また仙台市の皆さんと協力しながらできればと思う。

筒井部長： 新型コロナウイルスの流行により、なかなか会合の場を設けることができず資料等でやり取りさせてもらったが、今日委員会を開催し色々とディスカッションし様々な意見をお聞きした。ただ、委員会の時間を濃いものにしていくためにも事務局の方で色々と資料のやり取り等、委員会までに十分な準備を行いたい。中間案をまとめて、11月にかけて市民のご意見をお聞きするパブリックコメントを超えていくことが計画を作るために大きなものになっていくと思う。事務局から、委員へ個別での確認や協力を得ながらまとめてあげていきたい。引き続きよろしくお願ひしたい。

3 閉会